

## 第2章 圏域の概要

### 第1節 地域特性

#### 1 地勢

肝属圏域は、大隅半島の西北部から南部に広がり、東側は太平洋、西側は鹿児島湾に面し笠野原台地と東部に広がる肝属平野部をはさんで、北部に高隈山系、南部に国見山系山岳地帯で形成され、構成市町は鹿屋市、垂水市、東串良町、錦江町、南大隅町及び肝付町の2市4町で総面積は1,322.9km<sup>2</sup>となっています。

#### 2 気候

地域気象観測所における平年値で見ると、年間平均気温は鹿屋17.3℃、内之浦18.1℃、田代16.2℃、年間降水量は鹿屋2,351mm、内之浦3,043mm、田代2,637mmとなっており地域差があります。

#### 3 交通

地形的な制約を克服するため、交通網の整備が重要課題となっており、近年は県央や隣県と結ぶ東九州自動車道や圏内を縦断する大隅縦貫道のほか、隣接する曾於地区を介して隣県と結ばれる都城志布志道路の整備が進められています。

また、圏域各方面に一般乗り合いバスが運行されていますが、住民の主たる交通手段としては大部分が自家用自動車となっています。

圏域内は、北部の垂水市から南部の南大隅町まで車で約1時間を要するほか、圏央の鹿屋市から北の垂水市、南の南大隅町まではそれぞれ約40分、肝付町までは約20分要します。

#### 4 産業

大隅地域は畑地かんがい等農業基盤の整備により県下有数の畑作地帯、また、日本有数の畜産地帯が形成されているほか、地域の特性を生かした養殖を含む水産業や林業も盛んです。

産業別の就業者数の構成比を見ると、第1次産業の就業者割合は県の約2倍となっていますが、推移を見ると、第1次産業の割合が減少傾向にある一方、第3次産業の割合は増加しています。

【図表2-1-1】産業別就業者数

(単位：人，%)

区分	平成22年			平成27年			増減 (b)-(a)	
	肝属圏域		県	肝属圏域		県		
	人数(a)	割合	割合	人数(b)	割合	割合		
産業 3 部門	第1次産業	12,547	17.1	10	11,346	16.1	9.3	△ 1,201
	第2次産業	13,445	18.3	18.8	13,148	18.6	19.1	△ 297
	第3次産業	45,332	61.8	67.2	44,949	63.6	69.7	△ 383
	総数	73,315	-	-	70,665	-	-	△ 2,650

(注) 総数には、「分類不能の産業」を含む。

[国勢調査]

## 第2節 地域診断

### 1 人口・世帯数

#### (1) 人口

- 平成27年の国勢調査による肝属圏域の総人口は、156,787人で、平成22年から5年間に7,295人（4.4%）減少しています。
- 年齢3区分別<sup>\*1</sup>の増減を見ると、平成22年と比較して15歳未満が945人（4.2%）減少、15歳以上65歳未満が8,255人（8.8%）減少しているのに対し、65歳以上は、1,580人（3.3%）増加しています。
- 総人口に占める年齢3区分別の構成割合は、15歳未満が13.7%、15歳以上65歳未満が54.2%、65歳以上が31.6%となっており、高齢化が進んでいます。
- 国立社会保障・人口問題研究所によると肝属圏域の総人口は、平成37年には平成27年より17,080人減少し、約139,707人と推計されています。  
年齢別に見ると、65歳未満は18,284人減少し、65歳以上は1,890人増加することになります。

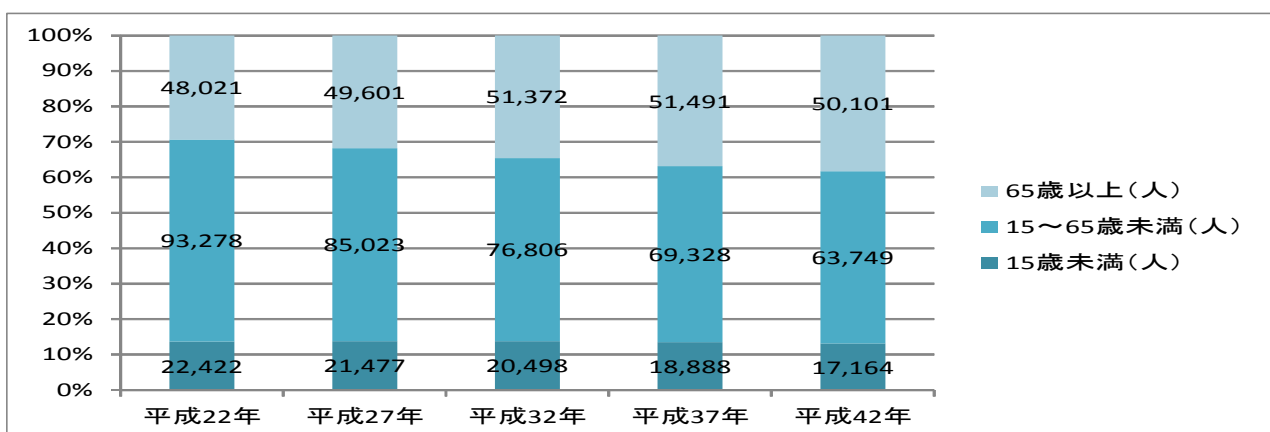
【図表2-2-1】人口の推移及び将来推計人口（単位：人，%）

区分	平成22年		平成27年		平成32年		平成37年		平成42年	
	人口	割合	人口	割合	人口	割合	人口	割合	人口	割合
総人口	164,082	100.0	156,787	100.0	148,676	100.0	139,707	100.0	131,014	100.0
15歳未満	22,422	13.7	21,477	13.7	20,498	13.8	18,888	13.5	17,164	13.1
15～65歳未満	93,278	56.8	85,023	54.2	76,806	51.7	69,328	49.6	63,749	48.7
65歳以上	48,021	29.3	49,601	31.6	51,372	34.5	51,491	36.9	50,101	38.2

（注）平成22・27年の総人口には、年齢不詳を含む。

[平成22・27年：国勢調査，平成32・37・42年：日本の地域別将来推計人口（平成30年3月推計）  
国立社会保障・人口問題研究所]

【図表2-2-2】年齢構成の推移



[平成22・27年：国勢調査，平成32・37・42年：日本の地域別将来推計人口（平成30年3月推計）  
国立社会保障・人口問題研究所]

\*1 年齢3区分別：年少人口（0-14歳）、生産年齢人口（15-64歳）、老年人口（65歳以上）

(2) 世帯構成

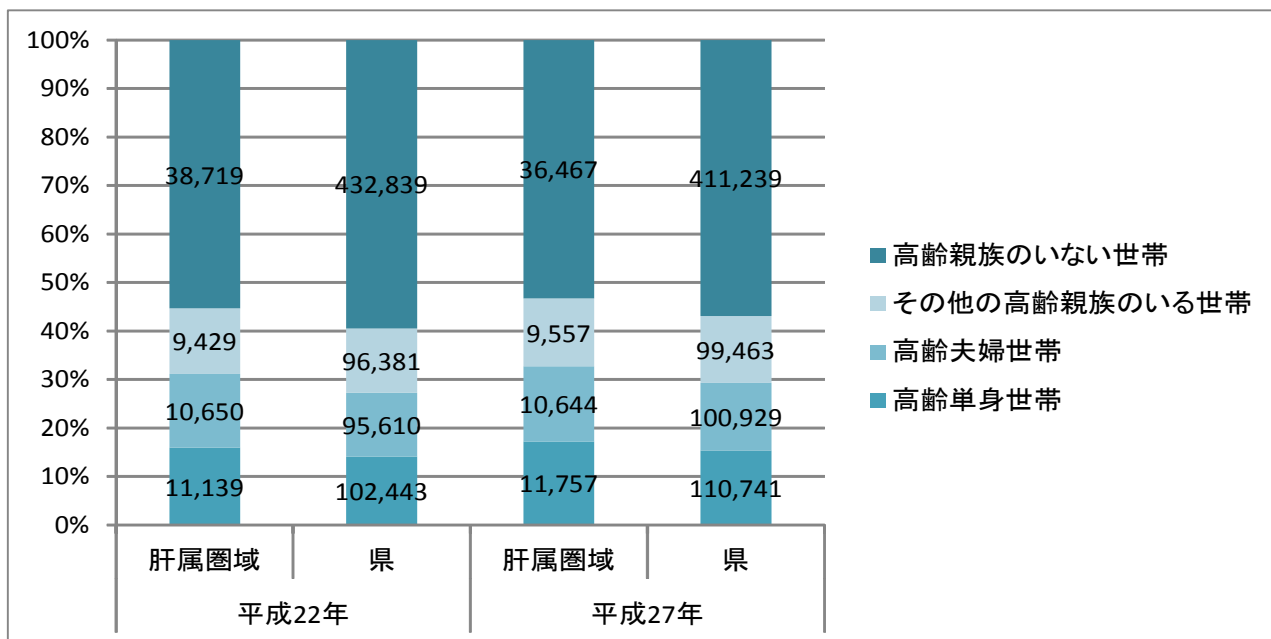
- 平成27年の国勢調査による肝属圏域の一般世帯<sup>\*1</sup>数は、68,425世帯で、平成22年と比べると1,512世帯（2.2%）減少しています。
- 65歳以上の高齢者のいる世帯は、31,958世帯であり、一般世帯の46.7%となっています。このうち、「高齢単身世帯<sup>\*2</sup>」（65歳以上の単身世帯）は、11,757世帯で一般世帯の17.2%となっており、県平均の15.3%を上回っています。

【図表2-2-3】世帯構成の推移

区分	平成22年(a)		平成27年(b)		(b)-(a)		県(平成27年)
	世帯数	割合(%)	世帯数	割合(%)	世帯数	増減率(%)	
高齢親族のいない世帯	38,719	55.4	36,467	53.3	△ 2,252	△ 2.1	57.0
高齢親族のいる世帯	31,218	44.6	31,958	46.7	740	2.1	43.0
高齢単身世帯	11,139	15.9	11,757	17.2	618	1.3	15.3
高齢夫婦世帯	10,650	15.2	10,644	15.6	△ 6	0.4	14.0
その他	9,429	13.5	9,557	13.9	128	0.4	13.7
一般世帯合計	69,937	100.0	68,425	100.0	△ 1,512	0.0	100.0

[国勢調査]

【図表2-2-4】世帯構成の推移



[国勢調査]

\*1 一般世帯：世帯の種類には、「一般世帯」と「施設等の世帯」がある。「一般世帯」は、住居と生計を共にしている人の集まり、1戸を構えて住んでいる単身者、間借り・下宿などの単身者、会社などの独身寮の単身者をいう。「施設等の世帯」は、寮・寄宿舎の学生・生徒、病院・療養所の入院者、社会施設の入所者、自衛隊営舎内居住者、矯正施設の入所者、その他をいう。

\*2 高齢単身世帯：65歳以上の者1人のみの一般世帯（他の世帯員がいないもの）  
 高齢夫婦世帯：夫65歳以上、妻60歳以上の夫婦一組の一般世帯（他の世帯員がいないもの）

## 2 人口動態

### (1) 出生

平成28年の出生数は1,342人で、平成24年から74人減少しています。また、出生率<sup>\*1</sup>は平成28年は8.6となり、県より0.2ポイント上回っています。

【図表2-2-5】出生数・出生率の年次推移

(単位：人)

区分		平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
出生数	肝属圏域	1,416	1,427	1,453	1,383	1,342
出生率 (人口千対)	肝属圏域	8.8	8.7	9.2	8.9	8.6
	県	8.8	9.0	8.5	8.6	8.4

[人口動態統計]

### (2) 死亡

平成28年の死亡数は、2,275人となっています。また、死亡率<sup>\*2</sup>は14.6となり、県より1.4ポイント上回っています。

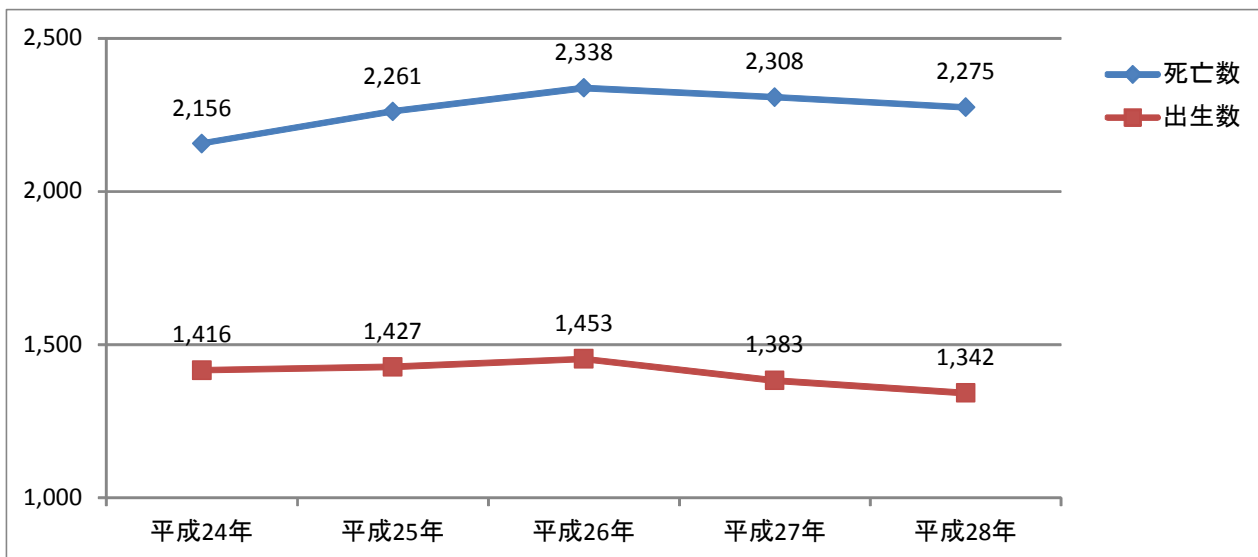
【図表2-2-6】死亡数・死亡率の年次推移

(単位：人)

区分		平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
死亡数	肝属圏域	2,156	2,261	2,338	2,308	2,275
死亡率 (人口千対)	肝属圏域	13.4	14.2	14.8	14.8	14.6
	県	12.6	12.6	12.8	13.0	13.2

[人口動態統計]

【図表2-2-7】出生数と死亡数の年次推移



[人口動態統計]

\*1 出生率：人口千人当たり出生数

\*2 死亡率：人口千人当たり死亡数

(3) 主要死因別死亡

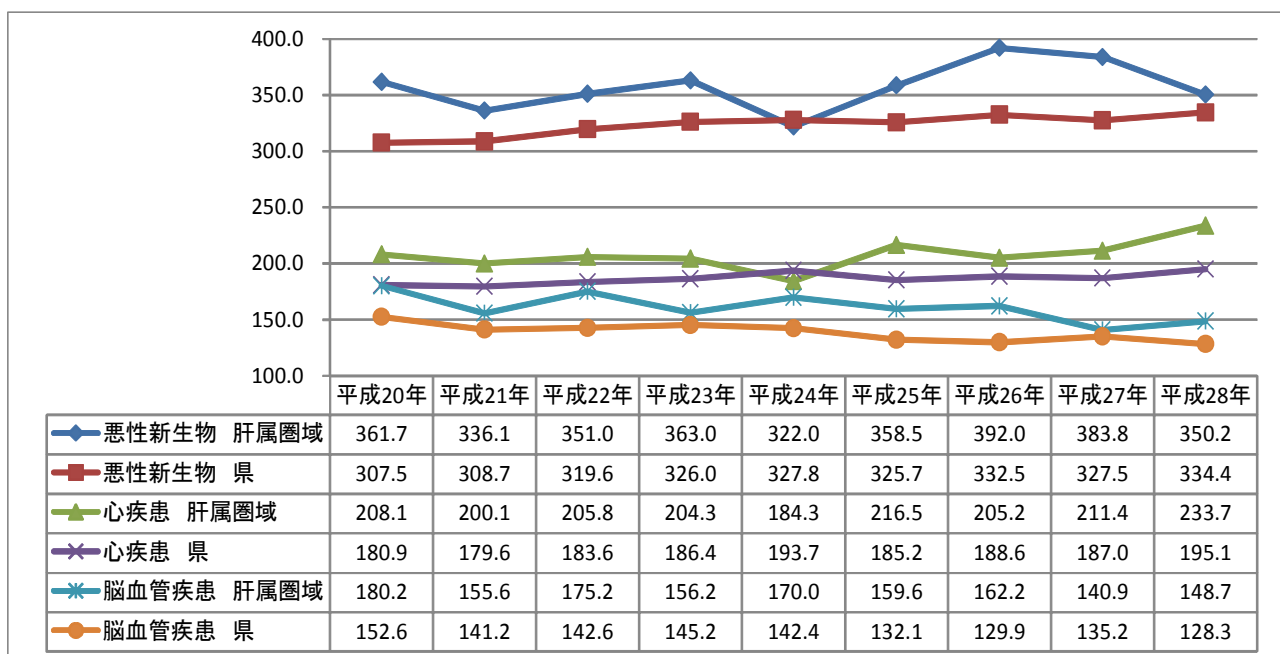
- 平成28年における3大死因は、悪性新生物544人(23.9%)、心疾患363人(16.0%)、脳血管疾患231人(10.2%)であり、全死亡数の50.0%を占めています。
- 平成28年の主要死因別死亡率(人口10万対)は、悪性新生物、心疾患、脳血管疾患ともに県を上回っています。

【図表2-2-8】主な死因の死亡数(平成28年) (単位:人,%)

死因名	死亡数	割合	死因名	死亡数	割合
全死因	2,275	100.0	肝疾患	28	1.2
悪性新生物	544	23.9	慢性閉塞性肺疾患	36	1.6
心疾患	363	16.0	糖尿病	31	1.4
脳血管疾患	231	10.2	大動脈瘤及び解離	29	1.3
3大死因計	1,138	50.0	その他の新生物	19	0.8
肺炎	184	8.1	敗血症	19	0.8
不慮の事故	74	3.3	ウイルス肝炎	4	0.2
自殺	24	1.1	結核	1	0.0
老衰	207	9.1	その他	432	19.0
腎不全	46	2.0	(再掲)交通事故	5	0.2

[人口動態統計]

【図表2-2-9】主要死因別死亡率(人口10万対)の年次推移



[人口動態統計]

## (4) 死産

平成28年の死産<sup>\*1</sup>数は、25胎（自然死産<sup>\*2</sup>13胎，人工死産<sup>\*3</sup>12胎）です。死産率<sup>\*4</sup>は18.3となっており，県の23.3を5.0ポイント下回っています。

【図表2-2-10】死産数，死産率（出産千対）の年次推移（単位：胎）

区分		平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	
死産	数	肝属圏域	52	59	54	47	40	39	41	25
		県	466	467	449	419	420	391	379	327
	率	肝属圏域	33.5	37.1	32.9	32.1	27.3	26.1	28.8	18.3
		県	30.3	30.0	28.6	27.5	27.9	26.7	26.1	23.3
(再掲) 自然死産	数	肝属圏域	22	22	24	18	14	20	26	13
		県	192	181	173	159	158	155	178	149
	率	肝属圏域	14.2	13.8	14.6	12.3	9.5	13.4	18.3	9.5
		県	12.5	11.6	11.0	10.4	10.5	10.6	12.3	10.6
(再掲) 人工死産	数	肝属圏域	30	37	30	29	26	19	15	12
		県	274	286	276	260	262	236	201	178
	率	肝属圏域	19.3	23.3	18.3	19.8	17.7	12.7	10.5	8.8
		県	17.8	18.3	17.6	17.0	17.4	16.1	13.9	12.7

[人口動態統計]

## (5) 乳児死亡

平成28年の乳児死亡<sup>\*5</sup>数は5人，新生児死亡<sup>\*6</sup>数は2人となっています。乳児死亡率<sup>\*7</sup>は県の2.3より1.4ポイント上回り，新生児死亡率<sup>\*8</sup>は県の0.7より0.8ポイント上回っています。

【図表2-2-11】乳児死亡数・乳児死亡率の年次推移（単位：人）

区分		平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
乳児死亡数	肝属圏域	5	3	3	3	4	2	4	5
乳児死亡率 (出生千対)	肝属圏域	3.3	2	1.9	2.1	2.8	1.4	2.9	3.7
	県	2.1	2.2	2.4	1.9	2.5	2.7	2.6	2.3

[人口動態統計]

【図表2-2-12】新生児死亡数・新生児死亡率の年次推移（単位：人）

区分		平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
新生児死亡数	肝属圏域	2	3	2	1	2	1	2	2
新生児死亡率 (出生千対)	肝属圏域	1.3	2.0	1.3	0.7	1.4	0.7	1.4	1.5
	県	0.9	1	1.0	0.9	1	1.2	1.1	0.7

[人口動態統計]

\*1 死産：妊娠満12週(第4月)以後の死産であり，自然死産と人工死産がある。

\*2 自然死産：人工死産以外の死産

\*3 人工死産：胎児の母体内生存が確実であるときに，人工的処置を加えたことにより死産に至った場合

\*4 死産率：出産数(出生数+死産数)千人当たりの死産数

\*5 乳児死亡：生後1年未満の死亡

\*6 新生児死亡：生後4週未満の死亡

\*7 乳児死亡率：出生数千人当たりの乳児死亡数

\*8 新生児死亡率：出生数千人当たり新生児死亡数

(6) 周産期死亡

平成28年の周産期死亡<sup>\*1</sup>数は7人、周産期死亡率<sup>\*2</sup>は5.1で、県の3.0より2.1ポイント上回っています。

【図表2-2-13】周産期死亡数・周産期死亡率の年次推移 (単位：人)

区分		平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
周産期死亡数	肝属圏域	6	11	6	3	6	5	8	7
周産期死亡率 (出生千対)	肝属圏域	4.0	7.2	3.8	2.1	3.3	3.4	5.8	5.1
	県	4.0	4.4	4.5	3.4	4.2	3.3	4.1	3.0

[人口動態統計]

\*1 周産期死亡：後期死産（妊娠満22週以後の死産）＋早期新生児死亡（生後1週未満の死亡）

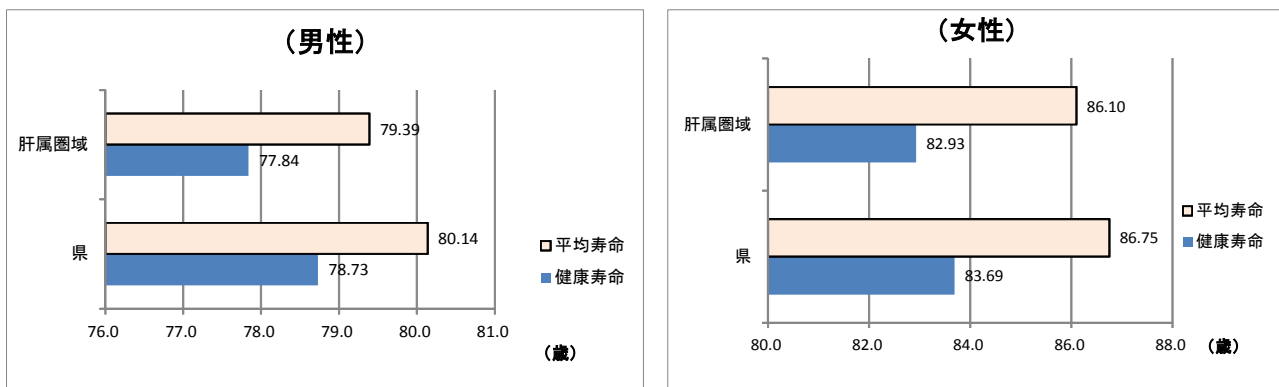
\*2 周産期死亡率：出産数千人当たりの周産期死亡数

### 3 健康指標

#### (1) 平均寿命と健康寿命

- 平成27年の肝属圏域の平均寿命は、男性79.39歳(県80.14歳)、女性86.10歳(県86.75歳)、健康寿命<sup>\*1</sup>は、男性77.84歳、女性82.93歳です。
- 平均寿命と健康寿命の差である、いわゆる障害期間を見ると、男性1.55年、女性3.17年です。

【図表2-2-14】平均寿命・健康寿命（平成27年）



[県保健医療福祉課調べ]

#### (2) 早世の状況

- 平成27年の65歳未満死亡数は、男性が168人(総死亡数1,126人)、女性が76人(総死亡数1,182人)です。
- 65歳未満死亡割合(65歳未満の死亡数/総死亡数)は、男性14.7%(県14.6%)、女性6.2%(県6.4%)で、男女で2倍以上の開きがあります。

【図表2-2-15】65歳未満の死亡割合（平成27年）

区 分		65歳未満死亡数	総死亡数	65歳未満死亡割合
肝属圏域	男性	168人	1,126人	14.7%
	女性	76人	1,182人	6.2%
県	男性	1,514人	10,350人	14.6%
	女性	708人	11,004人	6.4%

[衛生統計年報]

\*1 健康寿命：心身ともに自立した活動的な状態で生存できる期間。健康の判断基準は「要介護認定者数」を活用し、算出法は、厚生労働省科学研究健康寿命のページ「健康寿命の算定プログラム2010～2015」を活用した。



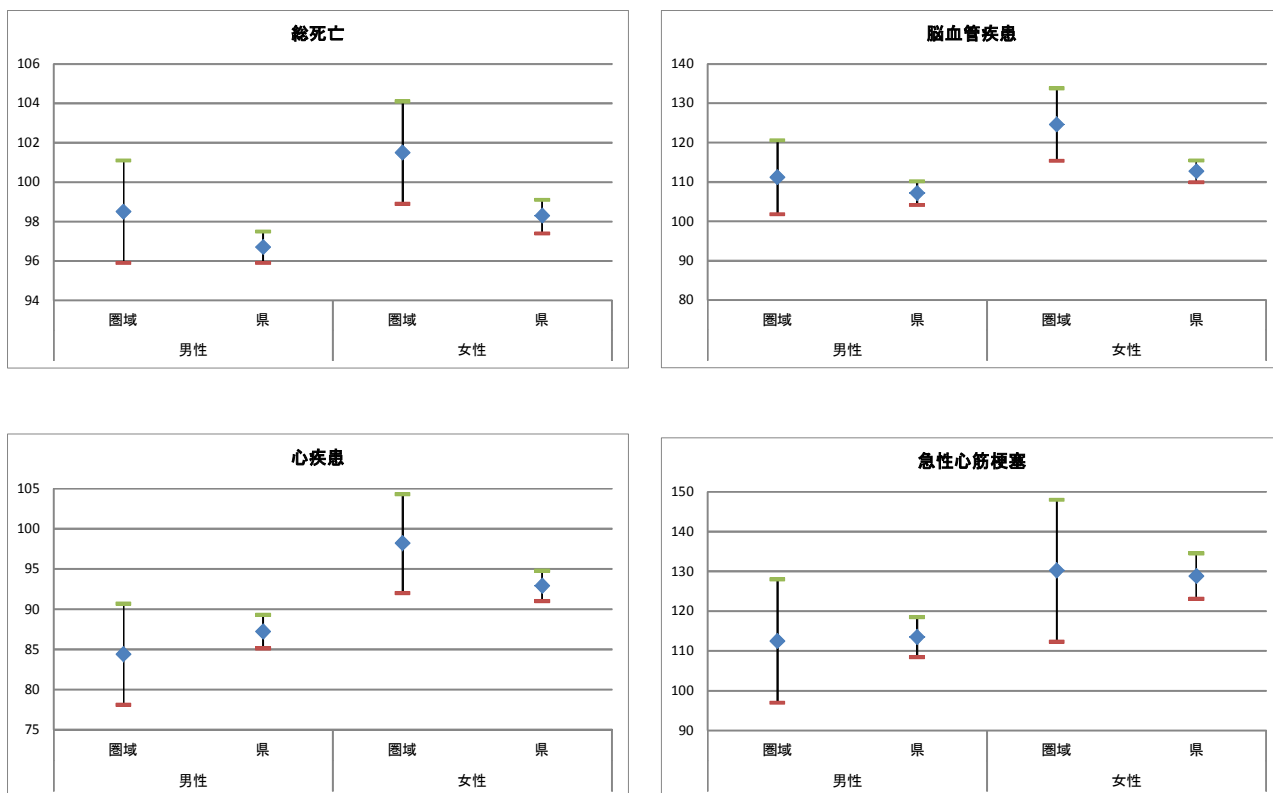
(3) QOL<sup>\*1</sup> (生活の質)

平成28年度に実施した「県民保健医療意識調査」によると、QOLは55点満点中男性35.6点、女性35.1点です。県平均と比較して、男性は0.3ポイント低く、女性は0.7ポイント低くなっています。

(4) 主な死因のSMR (標準化死亡比)<sup>\*2</sup>の状況 (平成24年～28年)

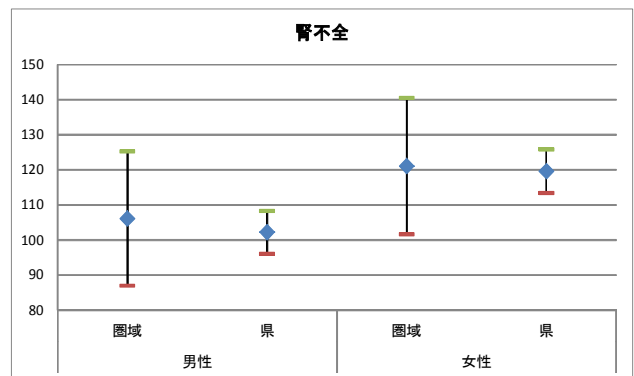
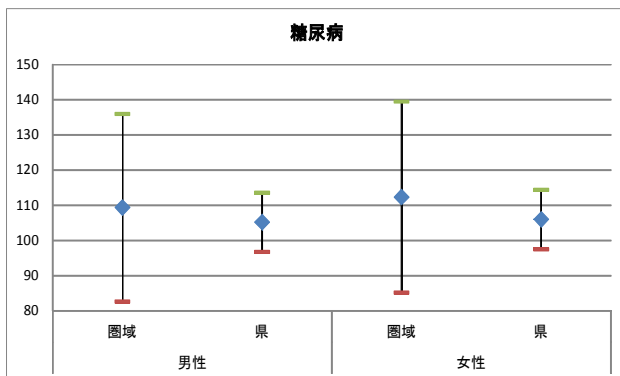
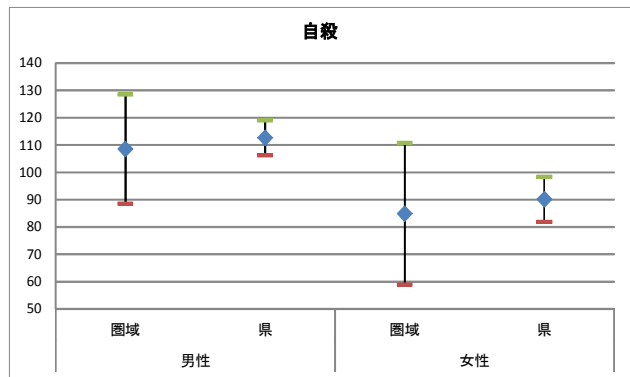
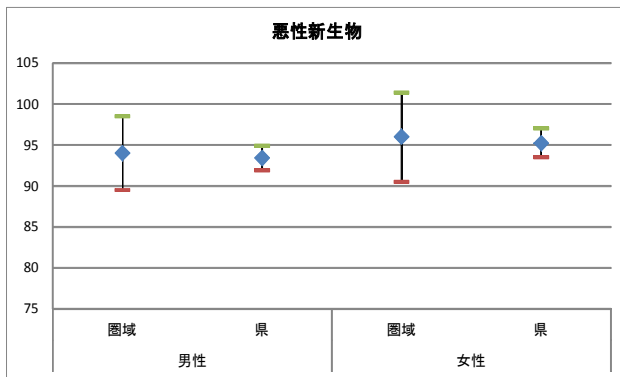
- 全国より高いのは、男性で脳血管疾患，急性心筋梗塞，糖尿病，自殺，腎不全  
女性で脳血管疾患，急性心筋梗塞，子宮がん，糖尿病，腎不全となっています。  
特に高いのは、男性，女性ともに脳血管疾患，急性心筋梗塞です。
- 全国より特に低いのは、男性で胃がん，女性で胃がん，乳がんとなっています。  
(がんの部位別SMRについては，第4章第1節「1 がん」に記載。)

【図表2-2-16】主な死因のSMR



\*1 QOL：生活の質である。生きがいや満足感，幸福感などを規定している様々な要因の質のこと。生活の自意識や生活者を取り巻く環境などが，この諸要因を構成していると考えられており，これらのバランスの良い向上が生活の質の向上につながると考えられている。平成28年度に実施した「県民保健医療意識調査」において，本県独自に，身体的領域・心理的領域・社会的関係・環境等の分野からなる11項目を設定し，調査した。「非常に満足」の5点から，「全く不満」の1点を加点し，最低11点，最高55点とした。

\*2 SMR (標準化死亡比)：地域の年齢構成を均一にした死亡率のこと。全国平均を100とし，SMRが100より大きいときは全国に比べて死亡率が高いと判断され，100より小さければ全国に比べて死亡率が低いと判断される。



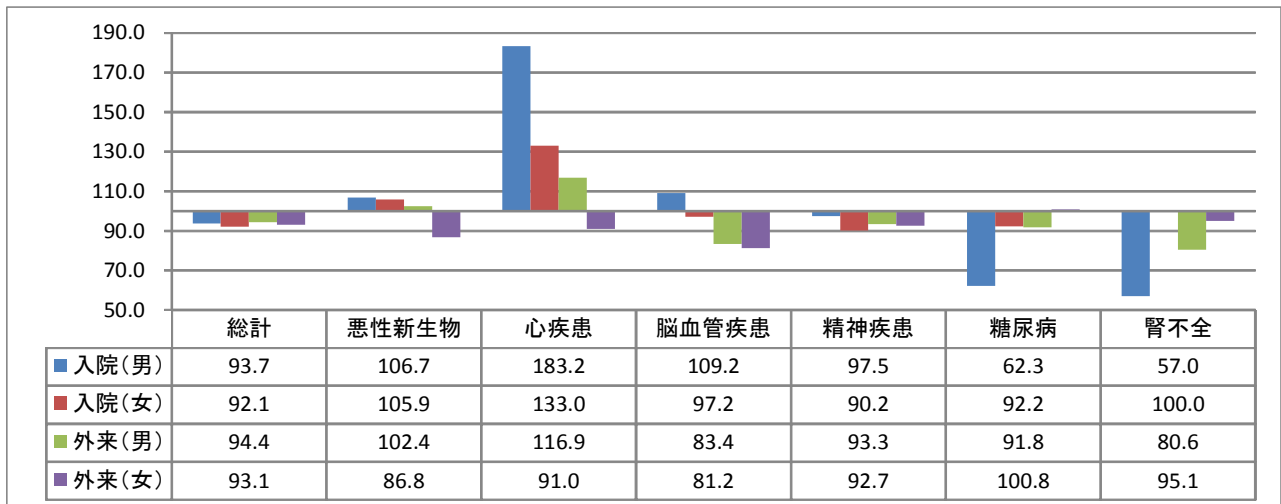
[自殺のSMRは県保健医療福祉課, 自殺以外のSMRは県健康増進課調べ]

## 4 疾病構造

### (1) 有病状況

平成27年・平成28年の5月分国保レセプトデータをもとに、有病率を見るものとして、各市町村の国保加入者の高齢化率の差異による疾病受診率への影響を補正するため、県を基準(100)として年齢を調整した「標準化受診比<sup>\*1</sup>」を算出しました。男性では悪性新生物、心疾患、女性では心疾患の入院が高くなっています。

【図表2-2-17】標準化受診比



[県保健医療計画]

### (2) 平均在院日数

- 平成27年の全病床における平均在院日数は41.1日であり、県より2.1日短くなっています。
- 病床別に見ると、一般病床は県より2.9日、精神病床は18.2日長くなっており、療養病床は、県より17.0日短くなっています。

【図表2-2-18】平均在院日数の年次推移

(単位：日)

区分	平成25年			平成26年			平成27年		
	肝属圏域	県	全国	肝属圏域	県	全国	肝属圏域	県	全国
一般病床	24.3	20.6	17.2	24.4	20.2	16.8	23.5	20.6	16.5
療養病床	110.0	134.1	168.3	106.0	130.4	164.6	117.1	134.1	158.2
精神病床	444.4	401.8	284.7	444.3	380.8	281.2	399.2	381.0	274.7
結核病床	0	78.3	68.8	0	78.1	66.7	0	78.3	67.3
感染症病床	10.5	12.6	9.6	8.7	8.9	8.9	8.3	12.6	8.2
総数	42.5	45.2	30.6	42.8	44.7	29.9	41.1	43.2	29.1

[病院報告]

\*1 標準化受診比：本県の市町村国保被保険者の年齢階級別の受診率により算出した期待受診者数（圏域ごとの人口構成に当てはめて算出）と実際の受診者数を比較するもの。県を100とし、100を越えれば受診率が高い、小さければ低いと判断される。

- ・ 標準化受診比 = 5月分の受診者数 / 期待受診者数
- ・ 期待受診者数 =  $\sum$  (5歳階級別圏域別被保険者数 × 県の5歳階級別の受診率)

## (3) 病床利用率

- 平成27年の全病床の病床利用率は76.2%で、県より6.1ポイント低くなっています。
- 病床別にみると、精神病床の利用率が93.9%と最も高く、次いで療養病床が85.6%、一般病床が66.5%となっています。

【図表2-2-19】病床利用率の年次推移

(単位：%)

区分	平成25年			平成26年			平成27年		
	肝属圏域	県	全国	肝属圏域	県	全国	肝属圏域	県	全国
一般病床	66.1	71.1	76.6	65.7	71.5	76.1	66.5	75.4	76.2
療養病床	87.9	88.9	90.0	87.3	88.8	89.0	85.6	87.1	88.6
精神病床	92.5	90.6	84.5	92.4	90.4	83.9	93.9	89.7	87.7
結核病床	0	25.9	34.2	0	25.7	34.7	0	30.9	35.4
感染症病床	78.7	7.2	3.0	71.6	6.8	3.2	59.2	5.4	3.1
総数	76.2	81.2	79.3	75.9	82.7	80.3	76.2	82.3	80.1

[病院報告]

## (4) 入院患者の動向

- 入院患者の動向（患者住所地と入院先の医療機関所在地との関係）を見ると、患者の住所地の保健医療圏の病院等に入院している患者の割合は84.7%となっており、鹿児島保健医療圏、奄美保健医療圏に次ぐ割合となっています。
- 県外の医療機関に入院している患者は、全入院患者の1.2%となっています。

【図表2-2-20】病院等入院患者の移動の状況

(単位：人，%)

区分	医療機関所在地											
	鹿児島	南薩	川薩	出水	始良・伊佐	曾於	肝属	熊毛	奄美	県外	合計	
患者 住所 地	鹿児島	1,282,288 95.9%	19,062 1.4%	10,801 0.8%	532 0.0%	19,216 1.4%	409 0.0%	2,075 0.2%	58 0.0%	184 0.0%	3,013 0.2%	1,337,638 100.0%
	南薩	94,468 19.3%	392,395 80.0%	45 0.0%	-	2,818 0.6%	-	-	-	-	651 0.1%	490,377 100.0%
	川薩	50,093 17.9%	676 0.2%	219,787 78.5%	1,797 0.6%	7,085 2.5%	-	52 0.0%	-	-	434 0.2%	279,924 100.0%
	出水	15,875 7.7%	109 0.1%	7,618 3.7%	161,509 78.2%	2,054 1.0%	-	10 0.0%	-	-	19,256 9.3%	206,431 100.0%
	始良・伊佐	80,231 14.7%	673 0.1%	1,606 0.3%	221 0.0%	449,677 82.2%	432 0.1%	880 0.2%	-	-	13,441 2.5%	547,161 100.0%
	曾於	12,104 5.4%	306 0.1%	70 0.0%	-	10,403 4.7%	102,930 46.1%	40,167 18.0%	-	-	57,059 25.6%	223,039 100.0%
	肝属	35,297 9.4%	669 0.2%	36 0.0%	36 0.0%	13,495 3.6%	3,369 0.9%	317,632 84.7%	-	-	4,458 1.2%	374,992 100.0%
	熊毛	33,850 29.1%	99 0.1%	-	-	1,313 1.1%	-	-	80,790 69.5%	-	137 0.1%	116,189 100.0%
	奄美	25,193 8.5%	244 0.1%	-	-	2,005 0.7%	-	33 0.0%	-	259,363 87.3%	10,173 3.4%	297,011 100.0%
	合計	1,629,399 42.1%	414,233 10.7%	239,963 6.2%	164,095 4.2%	508,066 13.1%	107,140 2.8%	360,849 9.3%	80,848 2.1%	259,547 6.7%	108,622 2.8%	3,872,762 100.0%

[県保健医療計画]

## 5 保健医療に対する県民の意識・行動

県民の保健医療に関する意識，要望等を把握するため，県民の満20歳以上の者から無作為に抽出した5,000人を対象に，平成29年1月にアンケート調査を実施し，54.6%の有効回答を得ました。肝属圏域では567人を対象に実施し，291人（51.3%）の有効回答を得ました。

調査結果の概要は，次のとおりとなっています。

### (1) 健康診断

健康診断の受診状況については，最近1年間に健康診断（がんのみの検診，妊産婦健診，歯の健康診査，免許取得や就職に伴う健康診断，病院や診療所で行う診療としての検査を除く。）を受診した割合は64.3%（県67.6%）となっています。

### (2) 優先して充実すべき医療体制

今後，優先して充実すべき本県の医療体制については，「生活習慣病の健康診断や健康相談の実施」39.9%（県35.2%）が最も多く，次いで「個人の健康状態にあわせた健康教育の実施」28.9%（県31.6%）の順となっています。

### (3) かかりつけ医，かかりつけ歯科医，かかりつけ薬局

- かかりつけ医を決めている人は67.0%（県65.5%）となっています。
- かかりつけ歯科医を決めている人は62.9%（県61.7%）となっています。
- かかりつけ薬局を決めている人は47.8%（県42.8%）となっています。

### (4) 地域医療への要望

#### ア 地域で不自由を感じている診療科目

- 地域（一般的に通勤や通学ができ，少し遠出の買物をするくらいの範囲）において不自由な診療科目があるとした人を診療科目別に見ると，「産婦人科」26.5%が最も多く，続いて「眼科」23.4%，「皮膚科」17.2%，「小児科」14.1%，「耳鼻いんこう科」13.4%となっています。（県：1位「眼科」20.0%，2位「耳鼻いんこう科」16.3%，3位「皮膚科」15.7%）
- 「不自由を感じているものはない」と回答した人は，27.1%（県33.7%）となっています。

#### イ 歯科医療と歯科保健に対する要望

歯科医療や歯科保健に望むこととしては，「休日・夜間でも治療が受けられる体制の充実」55.3%（県53.2%）が最も多く，次いで「地域や職場での健康診断にも歯科を含めること」25.4%（県27.8%）となっています。

#### ウ 医療連携に係る県民の意識

- 入院することになった場合受けたい説明として，「入院中の治療内容，治療方針，治療計画」71.5%（県73.9%）が最も多く，次いで「入院治療に要する費用の見込み」57.4%（県60.6%）となっています。

- 在宅医療や在宅介護を受け入れるために必要なこととして、「病状が急変したときに対応してくれる体制が整っている」61.5%（県60.8%）が最も多く、次いで「介護する家族の肉体的・精神的負担が大きくなる体制が整っている」50.9%（県56.7%）の順となっています。
- 治る見込みのない病気にかかった場合、自分の最期を迎えたい場所として、「自宅」が41.9%（県42.2%）と最も多く、次いで「自宅から緩和ケア病棟」16.5%（県20.6%）となっています。また、残された日々を自宅で過ごす場合必要なこととして、「医師の定期的な往診」58.8%（県57.8%）が最も多く、次いで「家族の理解」53.6%（県55.4%）の順となっています。
- 安心して医療を受けるために重要なこととして、「十分な説明を受け、納得して治療を受けること」76.6%（県75.0%）が最も多く、次いで「診療後に疑問が生じたら相談できる窓口があること」47.1%（県44.4%）の順となっています。

## 6 保健医療サービス

### (1) 医療従事者

#### ア 医師

- 医師数は、平成28年12月末現在で298人であり、平成24年から横ばいとなっています。
- 人口10万人当たりの医師数は平成28年12月末現在で191.9人で、県の272.5人を下回っています。特に東串良町、南大隅町及び肝付町は、人口10万人当たりの医師数が100.0人未満となっています。また、平成26年10月現在、無医地区\*1はなく、準無医地区\*2は1市1町2地区となっています。
- 小児科、整形外科、脳神経外科、産婦人科、麻酔科の医師は鹿屋市内に集中しており地域格差がみられます。

【図表2-2-21】医師数の推移

(単位：人，%)

区分		平成24年	平成26年	平成28年	28年 - 24年	28年 / 24年
肝属圏域	総数	298	283	298	0	1.0
	人口10万対	176.6	187.7	191.9	15.3	1.1
	医療施設従事医師数に占める女性の割合	11.6	13.4	13.4	2.8	1.2
県	総数	4,227	4,300	4,461	234	1.0
	人口10万対	250.1	257.8	272.5	22.4	1.0
	女性の割合	15.8	16.7	16.5	0.7	1.0

[医師・歯科医師・薬剤師調査]

\*1 無（歯科）医地区：（歯科）医療機関のない地域で、当該地区の中心的な場所を起点として、おおむね半径4kmの区域内に50人以上が居住している地区であって、かつ容易に（歯科）医療機関を利用することができない地区をいう。

\*2 準無（歯科）医地区：無（歯科）医地区には、該当しないが、無（歯科）医地区に準じた医療の確保が必要と知事が判断し、厚生労働大臣に協議し決定する地区をいう。

【図表2-2-22】市町別の医師数の推移

(単位：人)

区分	平成20年	平成22年	平成24年	平成26年	平成28年
肝属圏域	294	295	298	283	298
鹿屋市	222	222	234	221	237
垂水市	27	30	27	25	25
東串良町	6	5	3	4	4
錦江町	19	17	15	15	13
南大隅町	5	4	3	3	4
肝付町	15	17	16	15	15

[医師・歯科医師・薬剤師調査]

【図表2-2-23】市町別の人口10万人当たり医師数の推移

(単位：人)

区分	平成20年	平成22年	平成24年	平成26年	平成28年
肝属圏域	177.4	179.8	184.7	178.7	191.9
鹿屋市	211.1	211.3	223.7	212.3	229.7
垂水市	151.7	173.9	163.1	157.1	165.0
東串良町	87.6	73.5	44.6	60.4	62.2
錦江町	204.1	189.2	174.3	171.0	168.3
南大隅町	54.3	45.4	36.1	38.8	54.4
肝付町	86.3	99.1	96.7	88.1	96.9

[医師・歯科医師・薬剤師調査]

【図表2-2-24】業務の種別ごとの医師数の推移

(単位：人)

区分	平成20年	平成22年	平成24年	平成26年	平成28年
開業医	106	99	98	92	96
勤務医	181	193	196	183	197
行政機関等	1	1	1	1	1
その他	6	2	3	5	4

[医師・歯科医師・薬剤師調査]

【図表2-2-25】診療科目・従業地（市町）別の医師数（平成28年）

(単位：人)

区分	総数	小児科	整形外科	脳神経外科	産婦人科	麻酔科
肝属圏域	286	13	21	9	10	5
鹿屋市	228	13	18	9	10	5
垂水市	23	0	1	0	0	0
東串良町	4	0	0	0	0	0
錦江町	13	0	0	0	0	0
南大隅町	4	0	0	0	0	0
肝付町	14	0	2	0	0	0
県	4304	189	308	117	139	133

[医師・歯科医師・薬剤師調査]

【図表2-2-26】特定診療科における医師数（平成28年）

(単位：人)

区分	小児科 (小児人口1万人当たり)	産科(産婦人科+産科) (出生数千人当たり)	麻酔科 (人口10万人当たり)
肝属圏域	6.1	7.2	3.2
県	8.6	10.3	8.1

[平成28年医師・歯科医師・薬剤師調査，平成28年10月推計人口，平成27年人口動態統計]

## イ 歯科医師

- 歯科医師数は、平成28年12月末現在で91人であり、平成24年から横ばいとなっています。
- 人口10万人当たりの歯科医師数は平成28年12月末現在で58.6人で、県の81.9人を下回っており、また、平成26年10月現在、無歯科医地区は2町5地区、準無歯科医地区は1市1町2地区となっています。

【図表2-2-27】 歯科医師数の推移

(単位：人)

区分		平成24年	平成26年	平成28年	28年 - 24年	28年 / 24年
肝属圏域	総数	92	94	91	△ 1	1.0
	人口10万対	57.0	58.3	58.6	1.6	1.0
県	総数	1303	1294	1340	37	1.0
	人口10万対	77.1	77.6	81.9	4.8	1.0

[医師・歯科医師・薬剤師調査]

## ウ 薬剤師

- 薬剤師数は、平成28年12月末現在で261人であり、平成24年に比べ増加しています。
- 人口10万人当たりの薬剤師数は平成28年12月現在で168.0人で、県の189.2人を下回っています。

【図表2-2-28】 薬剤師数の推移

(単位：人)

区分		平成24年	平成26年	平成28年	28年 - 24年	28年 / 24年
肝属圏域	総数	251	251	261	10	1.0
	人口10万対	155.6	158.5	168.0	12.4	1.0
県	総数	2919	3043	3098	179	1.0
	人口10万対	172.7	182.4	189.2	16.5	1.0

[医師・歯科医師・薬剤師調査]

## エ 看護職員

- 看護職員は、平成28年12月末現在で、保健師79人、助産師33人、看護師1,769人、准看護師1,007人が就業しています。
- 人口10万人当たりの就業看護職員数は、准看護師以外は県を下回っています。

【図表2-2-29】 就業看護職員の状況(平成28年12月31日現在)

(単位：人)

区分		保健師	助産師	看護師	准看護師
肝属圏域	総数	79	33	1,769	1,007
	人口10万対	50.9	21.2	1,138.9	648.3
県	総数	915	598	21,463	9,574
	人口10万対	55.9	36.5	1,310.9	584.8

[県保健医療計画]

## オ 管理栄養士及び栄養士

肝属圏域の4市町に管理栄養士又は栄養士が配置されています。圏域の配置率は66.7%で、県の配置率を下回っています。



【図表2-2-30】市町行政栄養士配置状況

区分	平成29年6月1日
配置市町(a)	4
管理栄養士・栄養士人数	6
配置率((a)／市町数)(%)	66.7
県の配置率(%)	81.4

[厚生労働省行政栄養士配置状況調査結果]

カ その他の保健医療従事者

- その他の保健医療従事者は、平成23年に比べ、視能訓練士、歯科技工士以外は増加しています。
- 人口10万人当たりでは、診療放射線技師等、臨床検査技師等、理学療法士、言語聴覚士及び視能訓練士、歯科衛生士が県を下回っています。

【図表2-2-31】病院及び一般診療所、歯科診療所に従事する各職種の推移 (単位：人)

区分		平成23年	平成27年	27年 - 23年	27年 / 23年	
診療放射線技師等	肝属圏域	数	60.0	69.0	9.0	1.2
		人口10万対	37.0	44.0	7.0	1.2
	県	数	797.7	866.5	68.8	1.1
		人口10万対	47.0	52.6	5.6	1.1
臨床検査技師等	肝属圏域	数	53.0	64.0	11.0	1.2
		人口10万対	32.7	40.8	8.1	1.2
	県	数	719.2	783.7	64.5	1.1
		人口10万対	42.3	47.5	5.2	1.1
理学療法士	肝属圏域	数	168.7	216.3	47.6	1.3
		人口10万対	104.1	138.0	33.9	1.3
	県	数	1,850.2	2,341.9	491.7	1.3
		人口10万対	108.9	142.1	33.2	1.3
作業療法士	肝属圏域	数	103.4	132.2	28.8	1.3
		人口10万対	63.8	84.3	20.5	1.3
	県	数	1,001.7	1,238.4	236.7	1.2
		人口10万対	59.0	75.1	16.1	1.3
言語聴覚士	肝属圏域	数	28.9	36.1	7.2	1.2
		人口10万対	17.8	23.0	5.2	1.3
	県	数	301.5	380.4	78.9	1.3
		人口10万対	17.7	23.1	5.4	1.3
視能訓練士	肝属圏域	数	2.0	2.0	0.0	1.0
		人口10万対	1.2	1.3	0.1	1.1
	県	数	40.9	62.2	21.3	1.5
		人口10万対	2.4	3.8	1.4	1.6
臨床工学技士	肝属圏域	数	27.0	40.0	13.0	1.5
		人口10万対	16.7	25.5	8.8	1.5
	県	数	257.8	321.9	64.1	1.2
		人口10万対	15.2	19.5	4.3	1.3
歯科衛生士	肝属圏域	数	121.3	122.0	0.7	1.0
		人口10万対	74.9	77.8	2.9	1.0
	県	数	1,396.8	1,505.9	109.1	1.1
		人口10万対	82.2	91.4	9.2	1.1
歯科技工士	肝属圏域	数	24.0	24.0	0.0	1.0
		人口10万対	14.8	15.3	0.5	1.0
	県	数	218.2	204.4	△ 13.8	0.9
		人口10万対	12.8	12.4	△ 0.4	1.0

(注) 従事者数は、各施設における通常の勤務時間に常勤換算したもの。 [衛生統計年報]

## (2) 医療提供施設

## ア 施設状況

- 平成28年における医療機関数は、平成26年から一般病院が1施設減少しています。また、人口10万人当たりの一般病院数は、全国より上回っていますが、一般診療所数、歯科診療所数は下回っています。
- 平成28年における肝属圏域の病床数は、病院が3,054床、一般診療所が549床となっており、前年より病院が31床、一般診療所が17床の減少となっています。

【図表2-2-32】医療機関数の推移

(単位：施設)

区分	平成26年				平成27年				平成28年			
	施設数		人口10万対		施設数		人口10万対		施設数		人口10万対	
	肝属圏域	肝属圏域	県	全国	肝属圏域	肝属圏域	県	全国	肝属圏域	肝属圏域	県	全国
一般病院	20	12.8	13.0	5.8	19	12.1	13.0	5.8	19	12.2	13.1	5.8
一般診療所	121	76.4	84.3	79.1	121	77.5	85.5	79.5	121	77.9	86.1	80.0
有床	39	24.6	22.6	6.6	36	23.1	21.6	6.3	35	22.5	21.1	6.0
無床	82	51.8	61.7	72.5	85	54.4	63.9	73.2	86	55.4	65.0	74.0
歯科診療所	71	44.8	49.2	54.0	71	45.5	49.4	54.1	71	45.7	50.1	54.3

[医療施設調査]

【図表2-2-33】肝属圏域の病床数の年次推移

(単位：床)

区分	病院						一般診療所	療養病床 (再掲)	歯科診療所
	病院	精神科病床	感染症病床	結核病床	療養病床	一般病床			
平成26年	3135	699	4	0	629	1803	619	88	1
平成27年(a)	3085	653	4	0	630	1798	566	64	0
平成28年(b)	3054	653	4	0	630	1767	549	64	0
(b)-(a)	△ 31	0	0	0	0	△ 31	△ 17	0	0

[医療施設調査]

## イ 医療機関相互の機能分担と連携

- 医療は、患者の身近な地域で提供されることが望ましいという観点から、かかりつけ医（歯科医）を支援し、二次保健医療圏単位で地域医療の充実を図る病院として地域医療支援病院が設けられています。肝属圏域では、肝属郡医師会立病院と県民健康プラザ鹿屋医療センターが指定されています。
- 県民健康プラザ鹿屋医療センターは、地域の中核医療機関として救急告示病院、災害拠点病院、エイズ治療拠点病院、感染症指定病院、地域周産期母子医療センター、へき地医療拠点病院、臨床研修病院として、地域で不足する分野について医療の提供に努めています。
- 患者の紹介状況を県医療施設機能等調査（平成28年12月14日から12月20日までの実績）で見ると、病院71.4%、有床診療所76.9%、無床診療所60.4%が他の医療機関に患者を紹介しています。
- 紹介患者のうち83.9%が肝属圏域内の医療機関に紹介されています。

【図表2-2-34】患者の紹介状況と受入状況

(単位：施設)

区分	全体	他の医療施設等への患者の紹介状況						他の医療施設等からの患者の受入実績						
		実績がある		実績がない		無回答		実績がある		実績がない		無回答		
		割合(%)		割合(%)		割合(%)		割合(%)		割合(%)		割合(%)		
肝属圏域	病院	21	15	71.4%	5	23.8%	1	4.8%	15	71.4%	4	19.0%	2	9.5%
	有床診療所	26	20	76.9%	5	19.2%	1	3.8%	15	57.7%	10	38.5%	1	3.8%
	無床診療所	53	32	60.4%	20	37.7%	1	1.9%	18	34.0%	33	62.3%	2	3.8%
県	病院	216	151	69.9%	58	26.9%	7	3.2%	153	70.8%	56	25.9%	7	3.2%
	有床診療所	291	194	66.7%	85	29.2%	12	4.1%	125	43.0%	152	52.2%	14	4.8%
	無床診療所	663	368	55.5%	251	37.9%	44	6.6%	245	37.0%	366	55.2%	52	7.8%

[平成28年度県医療施設機能等調査]

【図表2-2-35】患者の紹介状況

紹介元	紹介先	大学病院	鹿児島市立病院	二次医療圏内					二次医療圏外					合計	
				地域医療支援病院	その他の病院	診療所	その他	小計	地域医療支援病院	その他の病院	診療所	その他	小計		
肝属圏域	病院	件	21	0	28	160	109	10	307	4	18	13	0	35	363
		%	5.8	0.0	7.7	44.1	30.0	2.8	84.6	1.1	5.0	3.6	0.0	9.6	100.0
	有床診療所	件	0	1	20	49	14	1	84	1	12	0	0	13	98
		%	0.0	1.0	20.4	50.0	14.3	1.0	85.7	1.0	12.2	0.0	0.0	13.3	100.0
	無床診療所	件	7	3	30	47	7	11	95	3	8	2	0	13	118
		%	5.9	2.5	25.4	39.8	5.9	9.3	80.5	2.5	6.8	1.7	0.0	11.0	100.0
計	件	28	4	78	256	130	22	486	8	38	15	0	61	579	
	%	4.8	0.7	13.5	44.2	22.5	3.8	83.9	1.4	6.6	2.6	0.0	10.5	100.0	
県	病院	件	175	87	259	1,053	1,321	78	2,711	4	18	13	0	35	3,008
		%	5.8	2.9	8.6	35.0	43.9	2.6	90.1	0.1	0.6	0.4	0.0	1.2	100.0
	有床診療所	件	61	68	258	316	214	28	816	30	50	39	7	126	1,071
		%	5.7	6.3	24.1	29.5	20.0	2.6	76.2	2.8	4.7	3.6	0.7	11.8	100.0
	無床診療所	件	87	109	419	392	314	38	1,163	49	82	71	2	204	1,563
		%	5.6	7.0	26.8	25.1	20.1	2.4	74.4	3.1	5.2	4.5	0.1	13.1	100.0
計	件	323	264	936	1,761	1,849	144	4,690	83	150	123	9	365	5,642	
	%	5.7	4.7	16.6	31.2	32.8	2.6	83.1	1.5	2.7	2.2	0.2	6.5	100.0	

[平成28年度県医療施設機能等調査]

【図表2-2-36】患者の受入状況

紹介施設 受入施設		件	大学 病院	鹿児島 市立病 院	二次医療圏内					二次医療圏外					合計	
					地域 医療 支援 病院	その 他の 病院	診療 所	その 他	小計	地域 医療 支援 病院	その 他の 病院	診療 所	その 他	小計		
肝 属 圏 域	病院	件	3	7	17	88	196	28	329	1	14	21	10	46	385	
		%	0.8	1.8	4.4	22.9	50.9	7.3	85.5	0.3	3.6	5.5	2.6	11.9	100.0	
	有床診療所	件	0	0	8	25	18	0	51	0	6	2	1	9	60	
		%	0.0	0.0	13.3	41.7	30.0	0.0	85.0	0.0	10.0	3.3	1.7	15.0	100.0	
	無床診療所	件	1	0	12	31	12	2	57	0	7	1	0	8	66	
		%	0.8	0.0	10.2	26.3	10.2	1.7	48.3	0.0	5.9	0.8	0.0	6.8	100.0	
	計	件	4	7	37	144	226	30	437	1	27	24	11	63	511	
		%	0.8	1.4	7.2	28.2	44.2	5.9	85.5	0.2	5.3	4.7	2.2	12.3	100.0	
	県	病院	件	98	69	170	926	1,497	157	2,750	134	425	527	91	1,177	4,094
			%	2.4	1.7	4.2	22.6	36.6	3.8	67.2	3.3	10.4	12.9	2.2	28.7	100.0
有床診療所		件	19	22	77	126	126	15	344	9	22	26	3	60	445	
		%	4.3	4.9	17.3	28.3	28.3	3.4	77.3	2.0	4.9	5.8	0.7	13.5	100.0	
無床診療所		件	20	29	118	324	314	73	829	15	31	27	3	76	954	
		%	2.1	3.0	12.4	34.0	32.9	7.7	86.9	1.6	3.2	2.8	0.3	8.0	100.0	
計		件	137	120	365	1,376	1,937	245	3,923	158	478	580	97	1,313	5,493	
		%	2.4	2.1	6.5	24.4	34.3	4.3	69.5	2.8	8.5	10.3	1.7	23.3	100.0	

[平成28年度県医療施設機能等調査]